

「一人ひとりの思いや表現を大切にした音楽を」

山口 政世

## 一 分科会に向けての基調

ここでは、共同研究者の石窪氏が提起した文章を紹介していく。

### 『子どもたちをとりまく状況』

2017年5月、安倍首相は突然のように、「新たに憲法9条に自衛隊の存在を書き込む」そして「2020年に新憲法施行を目指す」といった。2015年9月に、多くの国民の反対を押し切って強行採決をした安全保障関連法によって、自衛隊は大きく変貌している。

また、2018年4月から小学校で「特別の教科 道徳」の授業が始まる。そもそも「いじめのない学校を」といった表向きの顔をもって始まった「道徳の教科化」は、教科書を見ると評価と一体となって戦前の修身以上のものになっている。ほんの一部分の情勢だが、基本的人権、民主主義、平和と命が危機的状況の中で今後の合研をむかえている。

子どもたち一人ひとり、個性豊かにのびのびと育つ権利を持っています。しかし子どもたちの現実はどうでしょう。できるだけ効率的に速く、切り刻んだ知識を反復・訓練で詰め込み、「学力テスト」で順位がつき、自己責任を突きつけられるという競争と成果主義の中にいます。その中で、将来の夢を描きにくい閉塞した時代を、必死に生きているようにも思われます。そして心許して相談する相手もいなく、自分の居場所を見つけられないでいます。人間関係も複雑で深刻化しています。将来の夢を描くこともできず、無気力で投げやりになり、悶々としながら日々を過ごしているようにも思われます。

また、若い教師たちも、「数値化した教育目標の提示」「形式的な書類の提出期限厳守」など、徹底した管理体制の下で、「子どもの声に耳を傾け、一人ひとりを大切にしたい・・・」という気持ちもくじけてしまいそうな状況におかれています。

こうした現実の中、子どもたちはさまざまな思いをいっぱい詰め込んで音楽室にやってきます。その思いを一つ一ついねいに受け止めなければなりません。私たちの分科会では、教師が子どもたちとの人間的な交わりを大切に、共感し学び合い、喜びあふれる子どもたちの事実を出し合ってきました。今までの学びを大切に、今年も充実した話し合いを進めていきたいと思えます。

### 音楽の授業と教材

毎年のように「なぜ、その教材を選んだのか。」「なぜ今、その教材なのか。」という課題が話し合われ、深められてきました。音楽の授業を創るとき、教材を選び、そして深める仕事はきわめて大切なことです。そして、教師が周到に準備した教材を子どもたちがどう受け止めるか、その出会いは実に様々です。たとえ下を向いて黙っていたり、立ち歩いたり、関係ないようなことを話していたりしていたとしても、子どもの目はまっすぐありのままを見つめ、濁ってはいません。むしろ感性の鋭さを目の当たりにする

ことがあります。私たちの仕事に、これで十分ということはありません。だからこそ、子どもが豊かに表現してくる事実から、常に学び合うことが必要と思います。

音楽の授業は、選び抜かれた教材を媒介にして、子どもと教師が心を通わせ合いながら、育ち合っていく場といえます。教材を選択する感性を豊かにし、選んだ教材を音楽として魅力的に表現できるよう精一杯努力して伝えること。教室で生まれた音楽に心寄せ、共有し、共に育ち合っていこうという子どもたちへの信頼。など授業を創造するための大切な課題があります。

## 私たち自身が豊かになる分科会に

上から教えるという目線ではなく、一人ひとりの想いや表現を大切にし、子どもたちが一緒に音楽する楽しさに気づき、それぞれの音楽に心が動き、互いが高まろうとする教室から、たくさんのことを学ぶことができると思います。

私たちは、今までの教研での学び合いの歴史の中で、子どもたちの生き生きとした内面活動を大切にし、引き出し、豊かな表現活動を保障し、歌う喜びを共有することを大切にし、学び続けてきました。今年も子どもたちの事実を出し合って、学んでいきましょう。』

## 二 実践報告～レポート発表

今回は小学校3本、中学校1本、合わせて4本のレポート提案があった。

- |       |                             |  |
|-------|-----------------------------|--|
| レポート1 | わらべうたって楽しい！                 | 渡辺 健 (札幌市立清田小学校)                       |
| レポート2 | それぞれの「課題」                   | 山口 政世 (釧路市立鶴野小学校)                      |
| レポート3 | たくましく豊かな心と体 集団を育てる全校合唱の取り組み | 末村 哉子 (豊富町立豊富小学校)                      |
| レポート4 | 心が動き 一緒に音楽する楽しさを            | ～詩のイメージが音楽を豊かに～<br>石窪 満 (標茶町公立中学校音楽講師) |

今回は2日間で音大生1名、小学校5名、中学校1名、高校1名、退職者1名の参加者となった。1日のみの参加者も数名いたので、2日目は、再度レポートの要旨を伝えるところから始めた。

レポート報告の後、「子どもたちにとって音楽とは何か?」「なぜ学校で音楽を学ぶのか?」「どんな教材を選んだらよいのか?」など、音楽の授業の本質にかかわる討論を深めることができ、充実した分科会となった。

ここでは、それぞれのレポート提案の特徴的な内容を、提案者の原文を尊重し、引用も含めて報告したいと思う。

清田小学校3年目の渡辺さんは、1・2年生と持ち上がりで担任している。レポートは、1年目の時の6年生の様子から報告され、学校全体が荒れ、教職員は心身ともに疲弊していた。渡辺さん自身も相当なダメージを受けていたという。

翌年担任した1年生も大変な子の多い学級だったが、運動会での「荒馬」や日常的に取り組んだ「わらべうた」に子どもたちは夢中になりっていったが、HさんとRさんにはなかなか届かなかった。

学校全体も、子どもたちの気持ちに寄り添う方向での教職員の努力が実り、各教室に自分の居場所を見つけて徐々に落ち着いていき、卒業式は感動的なものになった。

2年生に持ち上がってからは、「たんぽぽ」「手と手と手と」など、動作のある歌をたくさん歌っていった。学年合同の音楽の参観授業では、子どもたちの楽しそうな様子に保護者たちも喜んでいった。

### 「青い空は」で戦争のことを思う

夏が近づいたころ、「青い空は」を紹介するなかで、戦争のことを話題にした。残念ながら国語の教科書から戦争教材がなくなってしまったので、この歌を通して考えさせることにした。子どもたちは元気な曲も好きだが、このようなテーマ性のある歌も大好きだ。「花は咲く」を教えた時と同じように、意味を考えながら歌ってくれた。その中で、ある女の子がこの歌を歌うたびに涙を流すようになった。一番最初にこの歌を教えた後、家でお母さんと戦争のことを話したそうだ。それで歌うたびに悲しくなり、周りの子が慰めてあげていた。この純粋な姿を世間の大人たちにも見せてやりたいと思った。

### 学習発表会は、「三宅島太鼓」「わらべうた」そして「歌」

今、来週に迫った発表会に向けて毎日練習を続けている。去年は劇で今年をあえて音楽に取り組んだ。理由はいくつかある。一つは、民舞は2年連続「荒馬」に取り組んだが、ぜひ和太鼓の魅力も伝えたかったから。二つ目は、今年は去年に比べわらべうたに取り組む機会が少なかったので、発表会の取り組みでじっくりとやりたかったから。三つめは、私のクラスに場面緘黙の双子の女の子がいるのだが、みんなと一緒に体全体で表現をさせたかったから。そして、最後の歌は「上を向いて歩こう」と「世界に一つだけの花」にした。

私は、「わらべうたチームを受け持ったが、発表というよりも普段の授業をして楽しく遊んで、それをそのまま舞台に上げようと心がけた。意外だったのは、HさんやTくんもわらべうたチームに入ったことだ。今まで手をつなぐこともしなかった彼らが、遊びの中で一緒に活動し、歌も上手になっていったことがうれしかった。扱ったわらべうたは、「つるつる」「なべなべ」「おちゃをのみに」「あんたがたどこさ」「いちりとらん」「ほおずきは」「ひとつひよこが」の7曲。休み時間には、太鼓チーム・劇チームの子も一緒にわらべ歌で遊んでいる姿がとても楽しそうで、この取り組みをやってよかったなあと思っている。

## 2 それぞれの「課題」

山口 政世（釧路市立鶴野小学校）

今年転勤した鶴野小学校での実践。特別支援学級の音楽の授業と、子どもたち一人ひとりの個性や課題から、今、この子たちに届けたい歌（教材）を模索している。

楽しいことが大好き、失敗やうまくいかないことは大嫌い。自信がない、「できない」ことに向き合えない気持ちを抱えている。

できなくたって大丈夫。そんなことで嫌いになったりしないよ。キミがここにいてくれる、一緒にいてくれるだけでとっても嬉しいよ。

こんな気持ちが伝わるように、今度こそ「ブルッキーのひつじ」を一緒に歌いたい。学芸会前で特支の音楽が持てない今のうちに、ピアノをしっかりと練習しておこう。

「ブルッキーのひつじ」は、同名の絵本をそのまま歌にしたもの。イメージするのが苦手な子が多いので、絵本を見ながら歌うことにした。もともと絵本の読み聞かせは好きな子たちなので、みんな、とっても集中して聴いている。最後の「メエ、メエ、メエ」は、なんて言ってると思うか聞いてみた。「ありがとう」「大好きだよ」と返ってきた。

けっこう長い歌なので、始めの部分だけ歌ってみる。後半、乱暴な歌い方になってしまう子いたので、「ブルッキーの気持ちになって歌ってね。」と言うと、乱暴さはなくなった。言葉の入れ方を何回か練習し、伴奏に合わせて歌った。まあまあ、歌えたかな？

この歌の持つ、やさしい、あったかい気持ちが広がるといいなと思う。

## 3 たくましく豊かな心と体 集団を育てる全校合唱の取り組み

末村 哉子（豊富町立豊富小学校）

豊富小学校は全校児童174名の単式校である。高学年の荒れや安心して繋がれないという学級集団の課題があった。そこで、学校づくりを見直す中で、全校合唱をその中核にすえて取り組んできた。

全校を縦割り班に分け、6年生がリーダーとなって姿勢や声の出し方を指導するというもの。「子どもたち同士での学びからリーダーや集団を育てること」「姿勢や発声を学ぶことによって自分の体をしっかり支える力を養う」「地域の方や保護者からの評価を自信につなげる」などのねらいがあり、「WAになっておどろう」「Tomorrow」「旅立ちの日に」に取り組んできた。

全校のリーダーとして、全体練習でねらいを伝えたり、班ごとの練習を進めたり、全校の様子に目や心を配り、新しい豊小の伝統を築いてくれています。

そんなリーダーの頑張りを少しだけ紹介すると・・・

- ・まずは、全校の見本に！歌う姿勢がさっとできてかっこいい！！
- ・側で様子を見たり、正しい姿勢を教えてあげていた。指示の仕方もの確で、わかりやすいなど、リーダーとしての動き、声かけがとても素晴らしい！

（中略）

こんな風に、がんばってくれている6年生。その6年生を5年生がしっかりサポート！

3・4年生は、低学年の見本になるという意識をもって練習しています。低学年は、優しいリーダーたちのことが大好きで、話を聞いてがんばろうとしています。

「豊小全校合唱通信 第1号」より抜粋

#### 4 心が動き 一緒に音楽する楽しさを ～詩のイメージが音楽を豊かに～

石窪 満 (標茶町公立中学校音楽講師)

標茶町の全校生徒6人の中学生との実践レポート。昨年のレポートの中心テーマ「とりわけ個を大切にすること」をベースにした実践報告になっている。

##### はじめに～とりわけ個を大切にすること

「音楽をしている時、みんなで声を合わせ、いろいろな感情がわき起こってくると同時に、心一つにして一体感を味わったり、隣の人との連帯感とかみんなでやりきったという達成感のようなものを与えてくれる。このことは何も否定はしない。

しかし、子どもたちの感じ方や表現は実に多様だ。そんな時、どう子どもたちと向き合うか、どんな文化をともに創り出していくかが問われている。一人ひとりの想いを受け止めるということは、一色に染められた全体ではなく、一人ひとりに真向かうということだから、「そろえる」とか「仕上げる」という考えを全く排除するということだ。

とりわけ個を大切にすることとは、こんな思いから出てきている。そうして全体を見たとき、一人ひとりの顔も見えてくる。最近そんなふうを考えるようになった。」

##### 本音で表現できる授業を創りたい

歌曲だから、歌詞は付きものだが、しかし意外と歌詞は二の次になり、親しみのある、また美しい旋律やリズムが直接心に伝わり、私たちの心を動かす。そんな音楽体験をたくさんしている。しかし歌曲はそれだけではない。優れた詩と旋律のエネルギーが一緒になった時の歌曲は、私たちの心を捕まえて離さない。シューベルト、シューマンたち、そして日本にもたくさんの歌曲がある。

子どもたちは歌うことが好きだ。気に入った旋律や詩に出会うと同じ曲でもずっと歌っている。そんな子どもたちを「学校で習う音楽」で音楽を嫌いにさせてはいけないと思っている。記号で埋められた楽譜を前にして歌っている音楽ではなく、その音楽に共感しながら、本音で心の底から表現できる授業を創りたいといつも願っている。

##### 詩のイメージが音楽を豊かにする

##### 実践メモ1～「冬の終わりの」をうたう

「冬の終わりの」では、縦書きの歌詞を黒板にはることによって歌詞の意味がよくわかり、歌の流れに変化と勢いがついてきたことが報告されている。

##### 実践メモ2～「うた」をうたう

「木のうた」は、(1980) ハンガリー生まれの建築家で画家のジョールジュ・レホツキーが孫のために画いた絵本に、木島始が詩をつけたものだ。各ページの絵に対応するようにして木島始が自由に詩をつけているという感じ。

絵本につけられた詩なので、言葉はわかりやすく、読んですぐに「なるほど…」と思えるものが多い。しかし、幾度と読み返していくといろいろなことが頭の中をめぐり、その時々にもいつも新鮮なものを感じる。

作曲者の工藤吉郎さんは、これらの中から12の詩をえらんで曲をつけ、一つ一つに見事な題名を付けてわかりやすくし、親しみのある柔らかな、そして時には自然の厳しさを感じさせる音楽にしてくれた。

この曲たちに取りくみはじめた頃、教室にこの絵本を持って行って、これらの絵からこんな詩が生まれたんだよ・・・と、何かのイメージにつながればいいなと考えて紹介し、話題にもしたが、むしろ子どもたちの発想を狭めてしまっているようにも感じた。言葉からもらう自由な発想や空想がなくなっているようにも思えたからだ。「木はふるえる」「ふしぎ」「卵の中」「木に聞く」と歌っていった。「風が光る」を歌ったときのこと。

雪がきえると 風が 光りだす  
うららかな 草も 木も みんな  
ぱっと 花がひらき ぱっと 子馬がかけだす  
空に舞い上がっていくよ このふしぎさは！

愚問だったが、「この詩、わかる？情景がうかんでくるかな？」。それに対して子どもたちはそれぞれの思いをいいあい、生き生きとその情景を語ってくれた。しかし、終わりの「このふしぎさは！」のところで話が止まった。ここで描写されていることはよくある普通のことで、別に不思議に思ったことがないという。そう、厳しい冬を知っていて、大自然の中での季節の移り変わりを身近に感じて生活している子どもたちにとって、それを”ふしぎだ”というわけだから…。どうしてふしぎというのか不思議なのだ。またもう一回読み直す。なんかそんなことから、「木のうた」の一連の詩の読み方（味わい方）が変わってきたように思った。

なんとも不思議な春のひかりをあびたときの思い。舞い上がるってさ、なんかすごいことになっているよね！本の中の子馬ではなく自分の家で飼っている馬が話題になったりする。そんなことを自由に話しながら歌うと、♪そらに一♪をなんと伸びやかに歌うことだろう。（「風が光る」）みのった実を木が地にかえすとき、木はかならずふるえる。ここところが好きになった子は、歌うときにも心もふるわす。（「木はふるえる」）♪色あざやかな花々・・・♪のところから曲がふわっと気持ちが変わるんだよね。（「種」）

大きな すばらしい木に 聞いてみるといい  
光と 風と 生きものたちの ちがいを  
お日さまの めぐりかた 春夏秋冬のふしぎを  
そして もちろん 子どもたちの  
ぶらさがりかたをも

この終曲の「木に聞く」を読んでいると、「えっ！」という顔をする子がいる。最後の行の「そして もちろん 子どもたちの ぶらさがりかたをも」のところ。どうして「子ども」が出てくるの？という顔だ。自然の中の木のことだから、ここに人間がでてくるはずがないと思っていたのだ。「そして もちろん」というのは、誰もが知っていて、言うまでもない！ということだから、自分だけが気が付かなかったのかと焦ったような顔をした。そこからぐっと自分に引き寄せてこの「木に聞く」を読むようになる。気づきっておもしろい。

授業の中での子どもたちとのやり取りのほんの一部分だが、こんなふうにして「木のうた」に取りくんでいった。

詩を読み、深めていく中で、例えば自分と自然との関わりについて新しい気づきがある。そういうことが音楽表現を豊かにしていくということを具体的な事実によって報告している。

レポート発表で提出された実践曲

- 2 山口実践 ～ 「機関車のうた」 (保坂純子 詩 丸山亜希 曲)  
「みんなでおどろう」 (大井数雄 詩 丸山亜希 曲)  
「ブルッキーのひつじ」 (M.B.ゴフスタイン 作 谷川俊太郎 訳 林光 曲)
- 3 末村実践 ～ 「Tomorrow」 (杉本竜一 作詞作曲)
- 4 石窪実践 ～ 「冬の終わりの」 (木村次郎 詩 丸山亜希 曲)  
「木に聞く」 (木島始 詩 工藤吉郎 曲)  
「風が光る」 (木島始 詩 工藤吉郎 曲)

### 三 今年度の特徴と来年度の課題

今年は市内中心部の会場が良かったのか、久しぶりに多彩な顔ぶれの参加者となった。また、実行委員会の尽力のおかげでピアノと音源の両方を活用しての分科会運営ができた。

音楽分科会なので、討論の土台として子どもたちの歌声を聞くことは欠かせない。また、実践された曲を参加者と一緒に歌って、その教材を実際に体験することも大切なことだ。

今年は、レポート発表時に録音を聞き、休憩前後に実践曲を歌い、わらべうたを体験するという時間を持つことができた。

実行委員会の皆様に厚くお礼申し上げたい。

参加者は、共同研究者、レポーターなどを含めて9名となった。音大生、小学校から高校までの現役教員がそろって学びを深めることができた。レポートのない参加者にも授業や子どもたちの様子を話してもらい、録音のみ発表する参加者もいた。

来年度も日常の実践に基づくレポートを期待したい。また、録音を持ち寄ることを案内パンフに明記するなどして、周知していきたい。